環境パートナーシップちば
だより
― つながれ ひろがれ ―

第１４０号
特定非営利活動法人
環境パートナーシップちば

℡：090-8116-4633
E-mail：info@kanpachiba.com
https://kanpachiba.com/

開催報告　SDGs・ESD フォーラム
～みんなでつながる地域拠点を創ろう～

■日　時　2021 年７月４日（日）13：00～15：30
■会　場　南房総市とみうら元気倶楽部さざなみホール＆オンライン（Zoom）
■参加者　76名（参加者：会場41名　Zoom：35名）
■次　第

趣旨説明
南房総市の紹介 紹介者：小谷 亮 氏
南房総市市民生活部市民課 市民協働グループ
講演「SDGs・ESD で取り組む持続可能な地域づくり」
講師：島田幸子氏　関東地方 ESD 活動支援センター
事例紹介「大房岬（場）を通した千葉自然学校の地域との取り組み」
紹介者：神保　清司　氏　南房総市大房岬自然の家 所長
NPO 法人千葉自然学校　事業部長
意見交流（会場・Zoom）「持続可能な地域づくりに向けて」

■後　援　千葉県　南房総市　市原市　ESD 活動支援センター
■内　容

参加者は、主に南房総市内外で環境保全・地域づくり・観光・教師・銀行・行政等多様であった。開催趣旨は、SDGs・ESD をひろげるための“ちば”拠点づくり事業の一環として、開催する。具体的には、千葉県南地域で多様な主体がつながることが、地域の環境を守り、持続可能な地域づくりとなる。そこには、“人“がつながる“拠点“を創ろうとよびかけた。

小谷氏からは、南房総市は第１次産業と第３次産業が主である。総人口の 46%が 65 歳以上となる。課題はあるが元気な市民と協働のまちづくりを展開している。７つの地域協議会の活動や市民提案型街づくりチャレンジ事業について紹介があった。

講演の島田氏からは、ESD についての解説と全国の８カ所に地方 ESD 活動支援センターがあり、ESD の活動支援や人材育成機能など ESD 推進の広域的なハブ機能を担っていること。SDGs については、SDGs が作られた背景、17 のゴールと 169 のターゲット、203 の指標があること。自治体向けの SDGs ガイドライン、「ESD for 2030」・第２期国内実施計画・新学習指導要領のスタートしたこと等の最新情報まで、詳細な説明があった。

神保氏からは、森を身近に感じる手段として、キャンプ、ハイキング、ネイチャークラフト等の体験活動を展開してきたが、令和元年台風 15 号の被害にあい、大きな転機が起きた。森を育む土壌改善作業、在来の雑木苗木を育てるなども行っている。海を身近に感じる手段として、磯の生き物観察・穴釣り・見釣り・コーステアリング・ビーチコーミング・ウミホタル観察の体験活動を展開している。最近は、磯焼け、海草・海藻の激減海ごみの増加などの問題がある。体験活動や、海洋プラスチックごみを拾いアート作品として海の環境を体験するなど、具体的な活動の紹介だった。

意見交流会では、持続可能な地域づくりにむけて、「こうしたらもっとよくなる」などの意見を出していただいた。南房総の資源を活かすために、地域+地域外との交流をひろげる、地域に若い力を引きこむ、SDGs の視点で多様なつながりを持つ等、会場や Zoom から熱い思いが出された。

このような意見を形にするための「第１回地域拠点づくり会議」（８月４日開催）へ参加協力をお願いして閉会とした。

（文責：桑波田和子）

第１回企画運営会議を開催しました

■日　時　2021 年６月４日（金）15：40～17：40
■会　場　千葉市生涯学習センター大研修室＋オンライン（zoom）
■参加者　27 名（会場参加：14 名、オンライン参加：13 名）
■内　容

新事業の最初の会議だったので、できるだけ顔を合わせて、と考えましたが、お忙しい方などは zoom でご参加いただきました。参加者は、2020 年度の地域リーダーさんたちも加わった「ちばプラットホームづくりメンバー」のみなさんです。まず、「SDGs・ESD をひろげるための“千葉”拠点づくり」という新事業について桑波田代表理事から説明がありました。特にだいじなのは、この『拠点づくり』は、メンバー全員が関わって作り上げていくことです。そこで、この事業を構成する会議やイベントの企画・運営の担当を全員で分担していくこととし、７つの企画（実施予定の事業・イベント）の中からやってみたいと思うものを選んでいただきました。

今回は会場とオンラインの併用で、グループごとの意見交換などはできませんでしたが、今後はメール（メーリングリスト）や Zoom 会議などを活用して、全員で事業の実施にむけて進めていきます。

（文責：小倉 久子）

ESD をめぐる最新の動向について（第２期 ESD 国内実施計画）

我が国における「持続可能な開発のための教育（ESD）」に関する実施計画（第２期 ESD 国内実施計画）が 2021 年６月２日に発表されました。
https://www.mext.go.jp/unesco/001/2018/1407955_00010.htm

この実施計画は、ESD 推進に関する世界的枠組みである “ESD for 2030”の理念を踏まえ、次の３点

① ESD の目的は SDGs の 17 全ての目標実現に向けた教育の役割を強調
② 持続可能な開発に向けた大きな変革（社会及び個人の変革）への重点化
③ ユネスコ加盟国によるリーダーシップへの重点化

を留意して、２回の ESD 円卓会議で識者による意見を招集し、更にパブリック・コメントを経て策定されました。

特徴は、「ESD が SDGs 達成への貢献に資する」という考え方を初めて明確化して作成されたという点です。

日本政府は、本年５月に開催された ESD 世界会議をキックオフとして、本格的に動き始めています。

●国内実施計画の基本的考え方としては

（１）SDGs 達成の義務・責任（SDGs 達成に向けて、責任ある関わりをしていく）
（２）ステークホルダー間のパートナーシップの促進（利害関係を有する者たちが金銭、役務などを出し合って取り組むことを促進）
（３）優先行動分野の推進
（４） 国際社会における ESD 推進の先導的役割を担う、

ことが挙げられます。

●当面の具体的な取り組み（５つの優先行動分野）

① 政策の推進（政府の各種推進計画に ESD の役割を入れ込んでいる）
　例：SDGs 実施方針、学習指導要領、パリ協定に基づく成長戦略　他
② 学習環境の変革（新学習指導要領に基づき、教科横断で「持続可能な社会の担い手」の育成を推進　ICT 化(*) を通じた包括型アプローチの実施）
③ 教育者の能力構築（ESD を実践する教育者の育成）
④ ユースのエンパワーメント（ユースによる実践・発信の促進）
⑤ 地域レベルでの活動の促進（ESD を通じた持続可能な地域づくり促進）

＊ ICT 化（Information and Communication Technology）：ネットワーク通信技術を活用して、人と人、人と物などをつなぎ、コミュニケーションをとること。

（文責：重　政子）

第 73 回 パートナーシップエコサロンの報告
「千葉県環境学習等行動計画をお聞きし、対話しませんか」

「千葉県環境学習等行動計画」について千葉県循環型社会推進課の藤田様に説明をしていただき、意見交換をするという内容で、2021 年６月 15 日にオンラインのエコサロンが開催されました。

この行動計画は今年の３月に策定され、（SDGs の目標期間と合わせて）2030 年を計画期間としています。環境学習等の“等”は、「環境学習」「環境保全の意欲の増進」「環境保全活動」「協働取組」の総合で、「現代の環境問題は、経済・社会の諸問題とも密接に関連・複雑化している」ことを背景に、時代に応じた見直しがされました。策定に当たっては、環境学習等の現場に携わっている個人や団体、事業者、市町村がワークショップ形式による意見交換もされ、課題や取り組みの方向性、行動計画の目標、推進施策等が話し合われました。

＜当日の資料より＞

行動計画は、「SDGs や ESD の視点を入れる」「体験を通じた学びを実践する」「生涯にわたる行動に結びつける」「みんなが連携・協働し地域社会全体で取り組む」という４つが柱になっています。いろいろな主体が連携できる機会や仕組みをつくり、利用できるプログラムや教材を整備する、基金や表彰など活性化のツール、若い人たちを取り込む仕組みも工夫するとされています。実際に千葉県循環型社会推進課公式 SNS 発信強化中！と、環境問題解決にむけてみんなで「環っしょい！」（Twitter）、食品ロスを減らしたいワン！「ノコサーヌ」（Instagram）の紹介もありました。

「知っている」だけでなく、心も体も稼働させ地球の環境悪化にブレーキをかける「行動」が急務であることが伝わってきます。「考え続ける」ことが環境だけでなく、自分の人生にも大切だと思う今日この頃です。　　（文責 中村明子）

市原市が「SDGs 未来都市」に選ばれました！

令和３年５月 21 日、市原市が千葉県内の自治体として初めて内閣府から「SDGs 未来都市」に選定されるとともに、「SDGs 未来都市」の中で特に先導的な取組である「自治体 SDGs モデル事業」にもダブルで選定されました。（市原市ホームページより）

『SDGs 未来都市』とは、特に、経済・社会・環境の三側面における新しい価値創出を通して持続可能な開発を実現するポテンシャルが高い都市・地域として選定されるもので、平成 29 年度までの「環境未来都市」の視点を、SDGs（経済・社会・環境）に拡げたものです。令和３年度は 31 の都市（県・市・町）が選定されました。

市原市の提案タイトルは

「SDGs のシンボルとなるまちへの挑戦」

です。

『自治体 SDGs モデル事業』は、SDGs 未来都市の中で実施予定の先導的な取組として選定されるものです。令和３年度は 31 カ所の「SDGs 未来都市」の提案事業の中から 10 事業が選ばれ、市原市もその一つです。市原市の事業名は

「化学×里山×ひと
～SDGs でつなぎ、みんなで未来へ～」

です。

モデル概要：国内有数の石油化学コンビナートを擁する都市として、2050 年カーボンニュートラルと持続的発展の両立へ向け、市原発サーキュラーエコノミーを実現する。併せて、里山環境を活かしたまちづくり、子ども・若者が希望を実現できる社会構築への取組等、多様なステークホルダーとの対話と連携を通じ、誇れる未来を創造する。

詳しいことは、「市原市 SDGs 未来都市」（市原市役所 HP）や、「内閣府 地方再生」を検索してご覧ください。

他の市町や県も、どんどん手を挙げるようになればいいですね。　　（文責：小倉 久子）

手賀沼の外来水草

美しい手賀沼を愛する市民の連合会　小倉久子

手賀沼では、印旛沼からの農業用水に乗ってやってきたナガエにオオバナが加わり、両者が勢力争いしながら繁茂域をどんどん広げています。美しい手賀沼を愛する市民の連合会（美手連）では、最初に確認した時からこれらの侵入に危機感を抱き、市民団体としてできることを、考えながら実践してきました。

①遮光実験

遮光シートでナガエを覆って死滅させるはずだったのですが、シートの上に泥が堆積し、その上に漂着したナガエが新たに根を張って増え出し、手賀沼には使えないことがわかりました。

②市民で行う駆除

市民で駆除できそうな場所で試験的に駆除を行いました。でも、高齢者も多い市民（団体）では駆除できる場所にも駆除量にも限界があり、その間にナガエ・オオバナはどんどん増え続けていきました。

③行政、企業も参加しての駆除

県（柏土木事務所）の声掛けで、地元建設業会も協力してくれることになりました。大型クレーンの他に働き盛りの屈強な若者も参戦してくれたので、駆除量が飛躍的に増えました。でも、その間にもナガエ・オオバナは、手賀沼や流入河川全体でどんどん増えていきました。

④琵琶湖から専門家を招き、市民も行政も勉強会

琵琶湖ではオオバナが異常繁茂し、県が先頭に立って機械を導入した大規模駆除を行い、オオバナの暴走を食い止めることに成功しつつありました。その情報を入手した美手連では、滋賀県の専門家をお招きして勉強会を開催し、市民だけでなく県や地元市の職員、議員の方たちにも聴いてもらいました。

⑤県の事業として動き出す

これらがきっかけの一つとなり、やっと県（環境生活部）が動き出したのです。「侵略的外来水草管理方法の検討」、「試験駆除」を経て、令和２年度末から本格駆除が始まっています。テレビなどでも放映されて有名になりましたが、大型の水草刈取り船を使って効率よく駆除しています。

ただ、駆除していないところはまだまだ多いことと、駆除した場所でわずかな取り残しや新たな切れ端の漂着により再繁茂が始まっているので、大規模駆除の後のフォローが必要です。

美手連は、定期的に船で調査したり定点観測を行ったりして、ナガエ・オオバナの様子を観察しています。そして、それを広く知らせるとともに、行政などに効果的な管理方法を提案してきました。これからもずっと手賀沼を見守っていきます。

詳しいことは美手連 HP（htt://biteren.com）をご覧ください。

コンバーによる刈り取り（2020 年８月５日）

祝　地域環境保全功労者表彰

環境省では毎年６月の環境月間にあわせて、環境保全、地域環境保全及び地域環境美化に関して顕著な功績があった者（又は団体）に対し、その功績をたたえるため、環境大臣による表彰を行っています。

このうち、地域環境保全功労者として千葉県から、当会代表理事でもある桑波田和子さんと内山明治さんが選ばれました。

桑波田さんの受賞理由は「平成 11 年に印旛沼の水質浄化活動を始めて以来、広域的に谷津・里山や自然環境の保全のため活動を行い、長年にわたり千葉県の環境・自然保護行政に大きく貢献した。」で、内山さんの受賞理由は「平成 13 年に千葉県環境学習アドバイザーに就任以来、地域に根差した環境学習や地球温暖化防止活動を行い、長年にわたり千葉県の環境行政に多大な貢献をしている。」です。内山さんも環パの元団体会員で、受賞理由にもあるとおり、現在も千葉県地球温暖化防止活動推進員として大活躍なさっています。

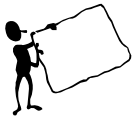
お二人とも千葉県の環境保全活動の牽引力となってくださった方で、本当にうれしいことです。

おめでとうございます！！

県内の環境保全活動人（団体）紹介　―　60　―
おききしました！　この人・この団体

安馬谷里山研究会

会長　横山 武



【趣旨】里山の保全と再生に、人々の英知を集めて自然と調和した生活環境を作り、植物のバランスのとれた里山とする。

【目標】一年中桜の咲く里山づくり

【活動経過】

1．平成 10 年に中山間地開発事業としてスタートする。
　総面積 12 ヘクタールのうち、4.2 ヘクタールの雑木林を切り拓き、桜を中心とした植樹を開始する。

2．平成 15 年に千葉県里山条例が制定されたことに伴い、同年８月に 23 名の参加で安馬谷里山研究会を設立する。

3．平成 25 年度までに植樹した苗木は、桜 130 種類 1,500 本、椿、ミモザアカシア、ロウバイ、アジサイ等である。

4．植樹した 4.2 ヘクタールを、１年間に２回の草刈、除間伐、苗木作り等の作業を、延べ 110 人で実施している。

5．定期的な里山ハイキングを年３回のほか、駅からハイキング等もあり、延べ 2,000 名の参加者あり。

6．林野庁が音頭をとって、産・学・官の連携で「森林セラピー研究会」が立ち上げられ、平成 20 年に「特定非営利活動法人 森林セラピーソサエテイ」が設立された。
平成 26 年３月に南房総市域が森林セラピー基地に認定されると同時に、「特定非営利活動法人 セラピーソサエテイ・ステアリングコミッテイ」から「安馬谷里山の道」がセラピーロードとして認定される。このコースは、未舗装の道路と、山間部の落ち葉と木のチップを敷いたチップロードとなっている。〈写真１〉

【令和２年から３年の活動状況】

・令和２年 11 月 21 日に、秋の里山で落ち葉拾いと、インストラクターの指導でヨガ体験をする「第 52 回里山ハイキング」を、安馬谷里山で開催し、24 名参加した。

・令和２年 11 月 28 日に、椎茸の駒打ち体験と、満開の十月桜や紅葉したチップロードを歩くミニハイキングを、安馬谷里山で開催し、11 名参加した。

・令和３年６月 12 日に、満開の花菖蒲やアジサイの見学と、インストラクターの指導で笑いヨガ体験をする「第 54 回里山ハイキング」を、安馬谷里山で開催し、20 名参加した。〈写真２〉

〈写真１〉

〈写真２〉

連絡先　千葉県南房総市安馬谷 521 番地
電話＆FAX　　0470－46－3154

（文責：笹子 全宏）

運営会議報告

６月度運営会議

６月１０日（木）20:00～22:00
会場：オンライン（Zoom）

【報告】
- 総会報告 5/23 にオンライン開催
  議案は全て異議なく了承された
- 地球環境基金⇒交付決定
- 第 72 回エコサロン 24 名参加

【協議】
- だより 140 号構成検討
- 第 73 回エコサロン開催 6/15
- 印旛沼環境基金の申請
- エコメッセ出展募集
- 地球環境基金　ESD プログラム体験会　他

７月度運営会議

７月８日（木）20:00～22:30
会場：オンライン（Zoom）

【報告】
- 第 73 回エコサロン開催 6/15
- 地球環境基金 ESD プログラム体験会
  6/27→9/7 に延期
- 公開フォーラム開催 7/4

【協議】
- エコメッセ出展募集
- 印旛沼環境基金事業 親子環境教室 8/26
  IVUSA 印旛沼研修会
- 千葉市公民館講座　他

お知らせ

第 24 回日本水大賞　ただいま募集中

主催：日本水大賞委員会・国交省

名誉総裁：秋篠宮皇嗣殿下

募集期間：2021 年 7 月 7 日～10 月 31 日
対象となる活動分野：①水防災/ ②水資源/ ③水環境/ ④水文化/ ⑤復興
対象となる活動主体：水循環系の健全化に寄与すると考えられる活動で、学校・企業・個人・行政が実施する諸活動
賞の内容：①大賞（グランプリ）②大臣賞（国土交通、環境、厚生労働、農林水産、文部科学、経済産業の各大臣）③市民活動賞　④国際貢献賞　⑤未来開拓賞　⑥審査部会特別賞

【申し込み・問い合わせ】
日本水大賞委員会事務局（公益社団法人 日本河川協会 TEL 03-3238-9771）
★ 詳しい内容・応募方法は、日本河川協会 HP をご覧ください。

参加者募集!! ESDプログラム公開体験会

ESDプログラムを体験し、南房総の海洋観察系プログラムの面白さや伝え方の工夫などをディスカッションします

日時：2021 年 9 月 7 日（火）8：00～17：00
集合：千葉駅東口 NTT 前（7：45）（バスで行きます）
対象：ESD プログラムを体験・ディスカッションに関心がある人
参加費：無料
定員：22 名（バス使用）　現地集合：５名

申し込み：info@kanpachiba.com へ
①氏名　②連絡先（連絡が取れる電話番号）をご記入ください
締め切り：8 月 27 日（金）　応募多数の場合は抽選
主催：特定非営利活動法人　環境パートナーシップちば
https://kanpachiba.com/
「独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金の助成を受けて開催」

「特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば」

環境活動の推進と充実を図るため、市民・団体・企業・行政・学校とのパートナーシップのもと、「持続可能な開発に向けた目標(SDGs)」や「持続可能な開発のための教育(ESD)」の視点を意識して、さらなる持続可能な社会の実現をめざすことを目的とする。

お問い合わせ
事務局：〒262-0006　千葉市花見川区横戸台 21-13　特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば
Tel　：　090-8116-4633E-mail：info@kanpachiba.com
https://kanpachiba.com/
※会費や会員申し込みなどの情報は上記 ＨＰでご確認ください。